当日メモ —— クラブ第16回「作品を、完成させる。」（11/27 金・60分）

スライド12枚・**本編60分**。**作品を作れる最後の回**。前回11/13は、生徒から質問がほとんど出なかった（困りごとを言葉にできていない）。そこで本日は**講師から声をかける回**にする：①全員を2周する ②1人1つ良くする案を伝える ③作る時間を1本にまとめ、全体の8割を作ることに使う。

流れと、各段で言うこと

段	p	分	言うこと・すること
つかみ	1-8	7.5	p2で**作れるのは本日が最後**と伝える。p3の2条件が本日のものさし。p5でシート①を書かせ、**講師は書いた内容を見て回る順番を決める**（残りが多い生徒から）。p6で「先生が回ってきたら、今どこまでできたかを30秒で答える」と予告し、**答え方の型**を1回読み上げる。
作る	9-9	49	**最初の約15分で全員を1周**（1人2分）。①「今、どこまでできましたか？」と聞く（生徒はp6の型で30秒で答える。答えが出ない時はシート①を一緒に読む） ②作品を開いてもらい、**講師が自分で触る** ③**良くする案を1つ**伝え、シート②に書かせる。**2周目**は、1周目の案が直ったかを触って確かめ、シート②に○。完成した生徒は、コツ2（作品で使う絵）・コツ3（審査員として採点）でさらに仕上げる。動く版がまだの生徒は開始と同時にスライド②で動く版づくりへ。**AIが作っている1〜2分の待ち時間に、ほかの生徒を回る**。画面の写真と一言は本日はやらない（12/4）。
完成を見せる	10-12	3.5	p10は1人20秒、ボタンを押して作品を見せる。講師は一人ずつ良かった所を1つ返す。**フォルダは消さない**。終わったら、生徒ごとの「完成の2条件の○」と、まだ直したい所を鴨川に伝える（12/4の準備に使う）。

削る順（押したとき）

- ①p7を飛ばす（−0.5分） ②完成を見せるを、希望者だけにする（−1.5分）
- 削らない：作る時間と、講師の1周目（全員に案を1つ）

前日までの準備

- **始まる時刻の確認：この日だけ学校の枠が14:00-16:00（期末試験の最終日）。授業は60分。何時に始めるかを秦先生に確認する（スライドは時刻を出さず「O分」で示している）**
- 前回と同じPCに座らせる（作品のフォルダが残っているため）
- 記録シートを人数分（A4・片面1枚）。動く版がまだの生徒のPCにスライド②を入れておく
- **全員のPCのデスクトップに「コツ3の頼み方.txt」を置く（審査の観点8つと受賞作の共通点が入った頼み方。p8と同じ文）**
- 11/13の記録シート（鴨川から受け取る）を見返し、1周目で生徒に伝える「良くする案」の候補を1人1つずつ用意しておく

想定トラブルと対処

「悩んでいません」と言う	講師が作品を30秒触り、迷った所を「ここで（どうしたら）、（どうなった）」の型で返す。審査員として採点（コツ3）を一緒にやる。
完成の2条件が終わった	待たせない。コツ2で作品の絵（アセット）を作って入れる→重なったらコツ1で直す。コツ3で採点してもらい、いちばん低い点を直す。
動く版がまだの生徒の動く版が時間内にできない	設計書と途中までの作品を残しておく（12/4の応募用紙はアイデア段階の図でも書ける）。12/4までに仕上げる時間を先生と相談する。
自分の作品が見つからない	デスクトップの「（自分の名前）の作品」を探す。Codexの一覧に無ければ、新しいプロジェクトで同じフォルダを選び直す（中身はそのまま使える）。

12/4に向けて

本日そろえる物は**動く作品（index.html）だけ**。画面の写真（応募用紙p8「作品の形」）と一言（p2「一言キャッチ」50文字以内）は、12/4にAIと一緒に作って応募用紙に入れる。設計書.md も応募用紙の下書きの材料になる。公式の締切は12/15（火）17:00。